

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3571200306		
法人名	社会福祉法人 最勝会		
事業所名	グループホームあそか		
所在地	山口県柳井市日積3213		
自己評価作成日	令和2年1月20日	評価結果市町受理日	令和2年5月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	令和2年2月5日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「和願愛護」の理念のもと、その人らしさを大切に考え、思いを受け止め、役割を持ち自立した生活が継続でき、安心して過ごすことができるよう、個別のサービスを行っている。併設の養護老人ホーム、特別養護老人ホームと「大正琴」で交流しており合同で行う「餅つき」を通して、地域の方々と交流の機会がある。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

入居時に入居者個人台帳に沿って、生活の様子や発症経過、バックグラウンド等を本人、家族から丁寧に聞き取られ、日々の関わりの中での利用者の言葉や行動をケア記録に記録され、6ヶ月ごとに定期的なアセスメントを行うことで、利用者の思いや意向の把握に努めておられます。大正琴や歌を楽しむ、認知症カフェに出かける、摘んできた花を飾る、誕生日に喫茶店でケーキを食べる、自室のモップかけや野菜の下ごしらえをするなど一人ひとりのしたいことや役割として活躍出来る場を支援されています。食事は、管理栄養士がたてた栄養バランスのとれた献立をもとに、利用者の好みや希望を聞いて、職員が献立をアレンジしたり、食べやすいように食事形態を配慮されたり、陶器の食器を使用して家庭的な雰囲気工夫されています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	<input checked="" type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	<input checked="" type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				



## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「和願愛護」「その人らしく」との法人運営理念に基づき、管理者と職員は実践に努めている。	事業所の理念を玄関に掲示している。週に1回日勤職員が法人全体の朝礼に参加して理念を唱和している。日頃の業務の中で折に触れて理念を確認し、共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設の養護老人ホーム、特別養護老人ホームと合同で、「餅つき」「音楽祭」などのイベントへの参加を通して、地域の方々との交流がある。	地域のふるさと祭りに利用者と職員と一緒に作った貼り絵作品を出展し、見学に出かけたり、法人主催の音楽祭や餅つきに参加して地域の人と交流している。併設施設に出かけてボランティア(大正琴、歌)と交流したり、高校生と歌やゲームを楽しんだり、認知症カフェに参加している。彼岸法要、盆法要に参加して、法話を聞いている。事業所の敬老会では、家族の知人による三味線の演奏を楽しんでいる。法人内敷地の散歩や職員と一緒に食材を取りに行った時に他施設の職員と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターが認知症カフェを月1回定例で行っている。認知症サポーター養成講座に参加している職員がいる。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価及び外部評価の意義を理解し、職員で共有して取り組んでいる。	管理者は評価の意義について職員に説明し、全職員に自己評価の書類を配布して、個々に記載したものを管理者がまとめている。職員は自己評価に取り組むことで業務を振り返る機会になっている。	・評価の意義の理解と活用

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、家族や地域のひととの意見交換を行い、日々のサービスの向上に生かしている。	2ヶ月ごとに開催し、利用者の状況、行事予定と行事報告、ヒヤリハット・事故報告、研修報告、外部評価報告などを行い、意見交換している。参加者から地域のイベント情報を聞いたり、誤薬に対して提案があり、薬の管理や配薬方法を変えるなど、そこで出された意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を中心に意見交換や情報収集を行い連携を図っている。	市担当者とは、直接出向いて空き状況の報告や相談して助言を得ている他、運営推進会議時、電話、ファックス、メールで情報を得るなど協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、施設内の連絡会議時や日頃より情報交換を行い、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の身体拘束委員会に委員が参加し、ミーティング時などで研修や確認し合い、職員間で周知している。	2ヶ月に1回、法人の身体拘束委員会に職員が出席し、ミーティングで報告し、報告書を回覧している。スピーチロックについては、職員同士で注意したり、管理者が指導している。玄関は状況により施錠することもあるが、外出したい利用者とは一緒に出かけるなど、利用者が閉塞感を持たない環境づくりに努め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の委員会に委員が参加しミーティング時などにおいてマニュアルの確認や検討を行い、職員間で周知している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人、管理者、介護支援専門員が把握している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面での説明及び個々の家族に対して管理者より説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、日々の面会時に意見や要望を聞く機会を設けている。	苦情の受付体制や処理手続きを定め、利用者や家族に契約時に説明している。毎月の支払い時、面会時、運営推進会議時、行事(敬老会など)参加時、電話などで家族からの意見や要望を聞いている。面会時には職員が利用者の様子を伝えるなどして、意見や要望が出しやすい雰囲気づくりに取り組んでいる。ケアに関する意見や要望は、その都度職員間で話し合って対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回ミーティングを行い、また必要に応じて意見交換の場を設けている。	管理者は、毎月のミーティングや毎朝の申し送り、申し送りノートを活用して、職員の意見や要望を聞く機会を設けている他、日常業務の中や年2回の人事考課としての個人面談でも聞いている。職員からの提案や意見は、そのつど職員間で話し合い、毎朝10時の全員によるテレビ体操の実施や環境整備に対する考え方など、職員の意見や提案を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を行い、管理者は個々の職員の努力や実績の状況を代表者へ報告している。また直接話す機会を作り環境や条件の整備に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員の能力に応じた研修への参加を促し、職員側から希望のある研修にも参加できるように支援している。	外部研修は職員に情報を伝え、経験や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供し、受講後は復命書を作成している。職員は法人の各委員会(身体拘束、事故防止、苦情処理、防災、感染症、広報)に出席して学習の場としており、必要に応じてミーティングで報告して、内容を共有している。内部研修は、アンガーマネジメント、認知症、手指消毒、高齢者の健康管理をテーマにミーティング時に実施している。グループホーム間でお互いの施設を見学して、意見交換を行っている。新人研修は、法人の規定に従って管理者が日常業務の中で行い、業務日誌を施設長に提出している。資格取得については、受講費の負担などを支援している。	・計画的な研修の実施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との相互訪問を実施し、情報交換を行い、サービスの質向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用開始前後のアセスメントや経過観察を行いながら、本人の話を十分に聞き馴染みの関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望を十分にアセスメントし、必要な支援方法を共に考え、信頼関係づくりに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を十分にアセスメントし、経過観察をおこない、必要な支援方法を共に考え対応に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は、助け合える関係であり、選択したり意見・意志を表出できる関係を作るべく取り組んでいる。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは情報交換を行い、家族の意向を大切に、共に本人を支える一員であることを伝えている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親族、知人の来訪や、お墓参りや美容室など家族の協力を仰ぎ支援している。	家族の面会や親戚の人、友人、近所の人、元同僚、昔世話になっていた人の来訪がある 他、電話の取り次ぎ、携帯電話の使用、手紙や年賀状のやりとりを支援している。家族の協力を得て、美容院や自宅での外泊、外出、墓参り、外食など馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々を把握し、その日その時に合わせて職員が潤滑油になって関係を保てるように努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も同法人施設へ出向いた際や出会った時は本人、家族に声を掛ける等関係の維持に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の希望や言葉を大切にし、意向を把握、真意をくみ取る努力をしている。	入所時のアセスメントシートを活用する他、6ヶ月ごとにアセスメントシートを作成し、日々の関わりの中での利用者の言葉や行動をケア記録に記録して、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は、家族に聞き取りをしたり、職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人に生活歴などをアセスメントし、把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケア記録を活用して把握に努めている。体調や変化についてはミーティング時に検討している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に家族の要望を聞き、担当者によるモニタリングを行い、ミーティング時に話し合い、介護計画を作成している。	毎月、計画作成担当者と担当職員が中心になってカンファレンスを開催し、利用者や家族の意向、かかりつけ医の意見などを参考に話し合い、介護計画を作成している。6ヶ月ごとにモニタリングを行い、計画の見直しをしている。状態が変化した場合は、そのつど見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は個別に行い、その他申し送りノートを活用し、職員全員で情報共有できるよう努めている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の施設でのイベントに参加し養護老人ホーム、特別養護老人ホームの職員や利用者との交流を設けている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	あそかフェのイベントに参加し楽しむことができる。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の支援を受け、かかりつけ医に通院していただいている。日頃より家族に健康状態などについての情報提供を行っている。	利用者、家族が希望する医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関がかかりつけ医の場合は、法人施設の診察日に合わせて職員が受診支援し、家族に報告している。それぞれのかかりつけ医への受診や他科受診は家族の協力を得ており、必要時には情報提供書を渡している。希望者には月2回歯科衛生士が来訪し、口腔ケアを行っている。夜間や緊急時は管理者に連絡し、かかりつけ医の指示を仰ぐなど、適切な医療が受けられる様に支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所には看護師は勤務していないが、1名の方は家族が協力医療機関をかかりつけ医に希望されている為、併設の養護老人ホーム看護師と連携を図り支援している。訪問看護師を利用している利用者はいない。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今までの状況、入院に至った経緯などを経過報告している。他院時は必要に応じてカンファレンスへ出席している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の体調の変化を把握し、家族の希望を十分に考慮して支援を行っている。	契約時に重度化した場合に事業所ができる対応を家族に説明し、「緊急時対応の誓約書」を交わしている。実際に重度化した場合は、家族、かかりつけ医、職員等で話し合い、入院や移設を含めて関係者で方針を決め、共有して支援している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	AED研修へ参加し、マニュアルの検討などを行い事故防止に取り組んでいる。	対応した職員が、ヒヤリハット・事故報告書に状況、原因、分析、対策を記録して施設長に報告すると共に職員に回覧し、申し送り時にも伝えて全職員が共有している。2ヶ月ごとに開催される法人の事故防止委員会に報告し、再発防止に努めている。職員は、消防署の協力を得てAEDの講習を受けており、急変時の対応については、「緊急時対応フロー」に基づいて対応しているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全ての職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や消防団の協力を得て夜間想定の場合火災避難訓練や、風水害、地震時の避難訓練や通報訓練を実施している。	法人施設合同で年に1回、消防署と地元の消防団の協力を得て、夜間想定の場合火災時の通報、避難、消火訓練を実施している。年1回、事業所独自で地震を想定した避難訓練を実施し、利用者と一緒に避難経路の確認をしている。事業所は、災害時の地域の避難場所となっており、法人施設には、1ヶ月分の備蓄品が用意されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の先輩であることを意識し、自尊心を傷つけないよう配慮している。利用者の方から教えていただくことも多く、利用者の存在に支えられていることを念頭に対応している。	職員は、人生の先輩である利用者から教わるという姿勢でかかわり、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。気になる対応については職員間で注意している。不適切なケアになっていないか、人事考課の中でも職員個々に振り返っている。個人情報取り扱いに留意すると共に、守秘義務についても遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴を通して、本人の思いや希望を聞き、質問の仕方を変えたり話しやすい関係作りに努め、自己決定できるよう支援している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活ペースに合わせ、希望の生活リズムで生活できるように本人を尊重した支援に努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた洋服選びや化粧品等ご家族と相談して今までの生活と変わらない生活が送れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえやテーブル拭きなど個々の能力に合った作業を提供し、満足感が得られるよう支援している。時にはお弁当や手作りおやつなどを取り入れ楽しめるよう支援している。	法人の管理栄養士が利用者の好みを配慮した、栄養バランスのとれた献立を作成している。週に3日のパン朝食時の副食は法人厨房からの配食を利用しているが、それ以外はすべて事業所で手作りしている。利用者は翌日の食材を隣接施設に取りに行ったり、野菜の下ごしらえ、テーブル拭き、下膳などを職員と一緒にいき、利用者と職員は、同じテーブルを囲んで一緒に食事を楽しんでいる。利用者の状態に合わせて一口大、刻み、小刻み、ミキサーなど食事形態に配慮し、陶器の食器を使用して家庭的な雰囲気が感じられるよう工夫している。季節の行事食(おせち、節分の巻きずし、ひな祭りの散らし寿司、彼岸のおはぎ、クリスマスのケーキ、餅つきとぜんざい、年越しそばなど)、誕生日の外出喫茶、花見や敬老会のお弁当、おやつ作り(ホットケーキ)、家族との外食など食べることを楽しむ支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状況に応じた形態(一口大、刻み、小刻み)や提供方法で提供している。食事摂取量のチェック表を使用し、水分確保に努めている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の身体的機能を把握し、声掛けや必要な介助を行い口腔ケアを実施している。希望者は月2回の訪問歯科の口腔ケアを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンや状況を把握してトイレでの排泄ができるように支援している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、一人ひとりに応じた声かけや誘導でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、水分摂取や食物繊維の摂取で自然に排泄できるよう支援している。家族に情報提供し主治医と相談して薬の調整を行うなどの支援を行っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週に2回以上体調に合わせて入浴していただいている。季節ごとゆず湯や入浴剤を用いて気持ち良く入っていただけるよう支援している。	日曜日以外の毎日、14時から16時までの間、一人ひとりの希望に応じて支援しており、2日に1回は入浴できるようにしている。個々の体調に応じてシャワー浴や部分浴、足浴、清拭などで対応し、入浴剤や柚子湯で入浴が楽しめるようにしている。入浴したくない利用者には、タイミングをずらしたり、人を変えて声かけするなど工夫している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に合わせて、日中の休息や夜間の安眠がバランス良く取れるよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書で効能、用法、副作用を理解している。出勤の職員皆で与薬の間違いないようチェックし、症状の変化を確認し家族へ伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の合わせて洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除など活躍する場面を作っている。また個別に誕生日の外出喫茶や地域のイベントへの参加を行っている。	テレビ(歌、時代劇、相撲、動物番組)やDVD(歌謡コンサート)視聴、歌(昭和の懐メロや童謡)、カラオケ、テレビ体操、指の体操、輪投げ、テーブルホッケー、お手玉、黒髭ゲーム、塗り絵、貼り絵、折り紙、パズル、トランプ、将棋、オセロ、新聞、雑誌、脳トレ(漢字、計算、間違いさがし、ことわざカード)、習字、書き初め、季節の作品づくり、大正琴、季節の行事(初詣、豆まき、母の日、敬老会、クリスマス、餅つき)、ふるさと祭、音楽祭、認知症カフェ、彼岸・盆法要と法話、外出喫茶などを楽しんだり、洗濯物干し、洗濯物たたみ、野菜の下ごしらえ、テーブル拭き、下膳、居室や廊下のモップかけ、洗面所の掃除、花摘み、花瓶に花をいけるなど一人ひとりが活躍出来る場面づくりを行い、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の会話の中から情報を収集し、戸外の散歩や花を摘んで生けるなどの趣味活動を支援している。	敷地内の散歩や花摘み、季節の花見(桜、あじさい、藤)、初詣やふるさと祭りへの参加、誕生日の外出喫茶などの個別の外出支援、家族の協力を得ての自宅への外出、外食、美容院の利用など一人ひとりの希望に添って戸外に出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力を十分に把握して、家族の協力のもとお金の使用について支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人と家族の希望を確認しながら支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾り付けをしたり、イベントに向けて装飾を楽しめるようにしている。また整理整頓に努め気持ち良く過ごせる様に努めている。	居間や食堂は吹き抜けで明るく、広々としており、大きな窓から見える山々の景色に季節の移り変わりを感じる事ができる。玄関やテーブルには季節の花が飾られ、壁面には行事の写真や季節に合わせた作品や塗り絵、習字が飾られ、季節感を感じることができる。キッチンからは、調理の音や匂いがして、家庭的で生活感がある。テレビ、テーブル、ソファ、イスが置かれ、利用者がゆっくりとくつろいで過ごせるようにしている。加湿器を設置し、室温や湿度、換気にも配慮して、利用者が居心地良く過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	必要に応じて模様替えをしたり、テーブルや椅子の配置を変え、ソファを活用して工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた小物を置いたり、好みの写真などを飾り、個々の好みに合わせた心地よい空間作りを行っている。	テレビ、イス、時計、化粧品、洗面道具、加湿器、携帯電話、造花、かご、ぬいぐるみ、おしゃべり人形など、自宅で使い慣れたものや馴染みのものを持ち込み、壁には、家族の写真、誕生日のカード、カレンダー、習字など自分の作品を飾り、本人が安心して過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや大きく表示した案内を貼り、自立した生活が送れるよう工夫している。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホームあそか

作成日: 令和 2 年 5 月 23 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	当グループホームは看護師の配置がなく、中でも日々状態把握や健康管理や薬の管理に努めているが、体調の変化が著しく、思いがけない事故や急変が発生する可能性が大きいいため、初期対応や応急手当に不安を感じている職員がいる。	緊急事態に対応できる心と知識を学び、冷静に行動できる。	同法人看護師による緊急対応についての部内研修会を行い学ぶ。	6ヶ月
2	50	新型コロナウイルス感染症対策による家族・親族との面会制限や外出制限が続き、入居者の方やご家族の方も不安を抱えている。	敷地内での散歩や日光浴、草花を見るなど自然を感じることで、緊張をほぐすことができる。	天候に合わせて、1日1回程度職員とともに屋外を散歩する等の時間を作る。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。